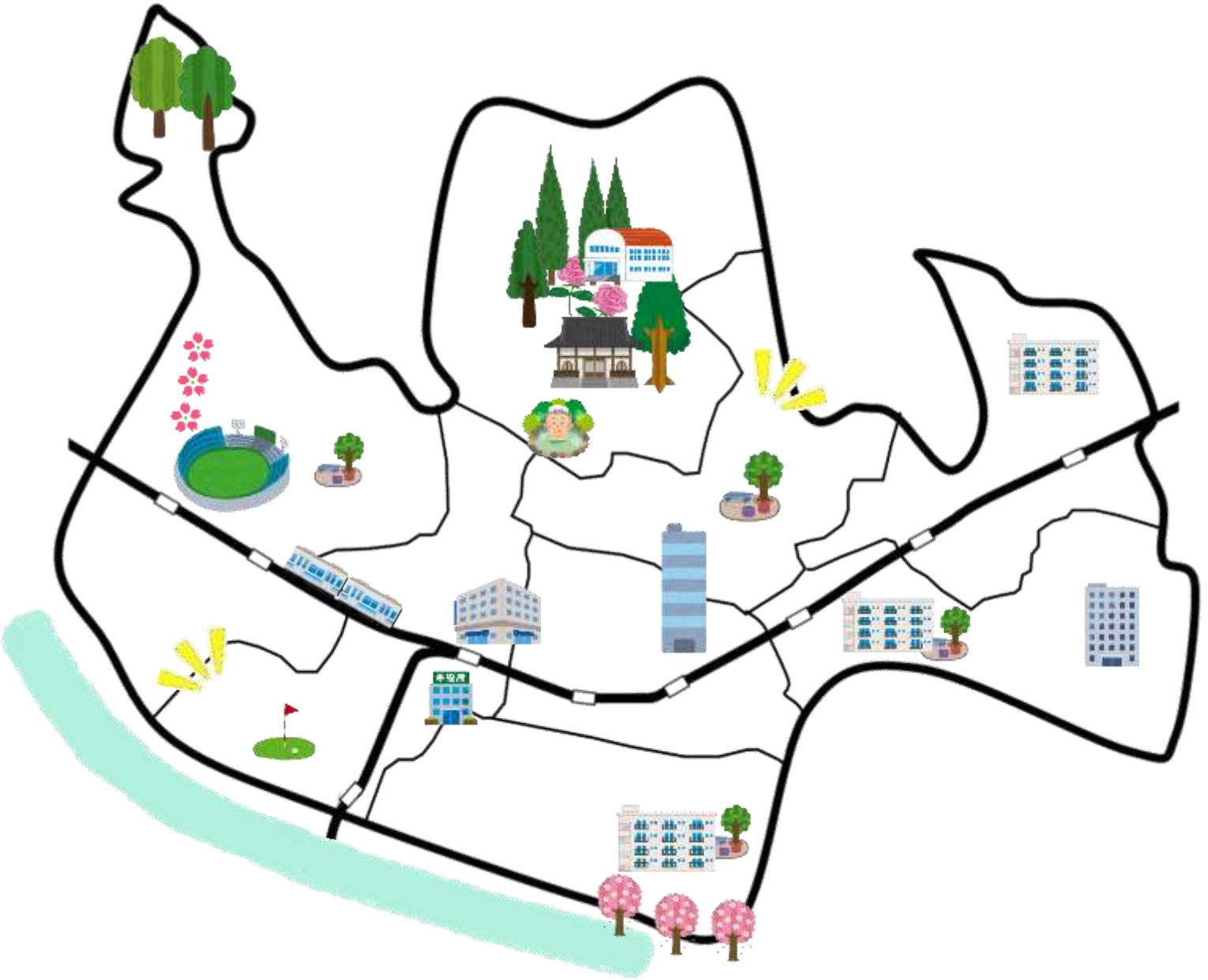


♡ さえあいの♡ ちいみづくい



令和5年度

調布市生活支援体制整備事業 報告書

～ 地域支え合い推進員 活動報告書 ～

令和6年8月

調布市 福祉健康部 高齢者支援室

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

目 次

この冊子のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・	1
生活支援体制整備事業とは・・・・・・・・	2
I 地域の取組と推進員の関わり（第2層）	
事例1 多世代が集う場「みんな食堂仙川スープ」・・・・・・・・	4
キーワード 高齢者の社会参加，多世代交流，地域の見守り	
事例2 「神代団地フードパントリー」・・・・・・・・	8
キーワード 団体同士の協働，ニーズ把握	
事例3 ラジオ体操講習会の実施・・・・・・・・	12
キーワード 介護予防，身近な地域での活動	
事例4 ただそこにいるだけで力になる子ども食堂 深大寺東町小規模カレー食堂・・・・・・・・	15
キーワード 高齢者の社会参加，多世代交流，施設の地域貢献	
事例5 地域みんなが知り合う場所「二小地区もりあげ隊」・・・・・・・・	18
キーワード 多世代交流，高齢者の社会参加，ニーズ把握	
事例6 みんなの部屋・・・・・・・・	21
キーワード 多機関協働，常設の居場所	
事例7 第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス， 第1層，地域包括支援センターと連携した取組「はつらつ筋陽会」・・	25
キーワード 企業連携，介護予防，体操グループの自走化	
事例8 生活支援サービス～おてつだい隊～ 「地域の支え合い活動を広げたい」・・・・・・・・	29
キーワード ちょっとした困りごと，支え合い活動	

2 市全体的な活動（第1層）

- セカンドライフ応援キャンペーン 3 2
- 常設通いの場スタートアップ事業補助金 3 3
- つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト
～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～ 3 4

3 総括

結びに 3 5

【用語集】 3 6

【資料編】

第1層・第2層地域支え合い推進員活動件数等 3 7

○問い合わせ先 4 1

この冊子のねらい

つながろう，みんなの輪

縁 ⇄ 円

みんなができることを持ち寄って「自分ごと」として，いつまでも生きがいや尊厳を
持って暮らせるような我がまち調布をつくりませんか？

地域支え合い推進員※（生活支援コーディネーター）がそのお手伝いをします。

この冊子では，令和5年度に推進員が関わった地域活動から，いくつかの例をピックアップして紹介します。これから，地域活動に参加したいと思っている人や，現在活動している人の「気づき」のきっかけになればと考えます。

※地域支え合い推進員とは・・・

高齢者のニーズと，ボランティアや地域住民などの互助的な地域資源をマッチングさせることにより，生活支援を充実させる役割を持つ。具体的には，不足しているサービスの開発やサービス提供のための体制作りなどを行います。



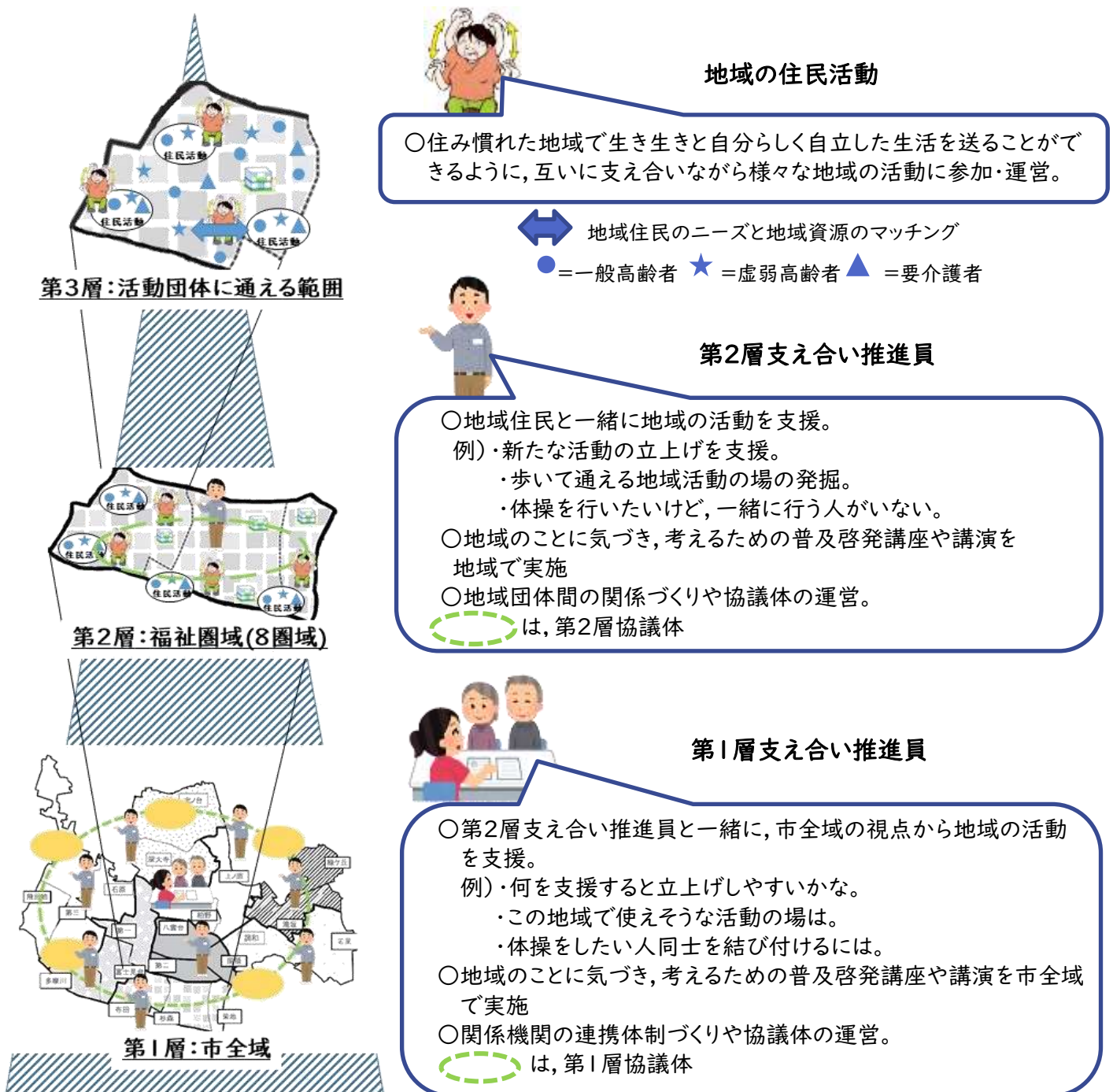
生活支援体制整備事業とは

少子高齢化が進展する中、高齢者が生きがいを持ちながら住み慣れた地域で自分らしい生活を送るためには、地域とのつながりや見守り、支え合いが必要です。

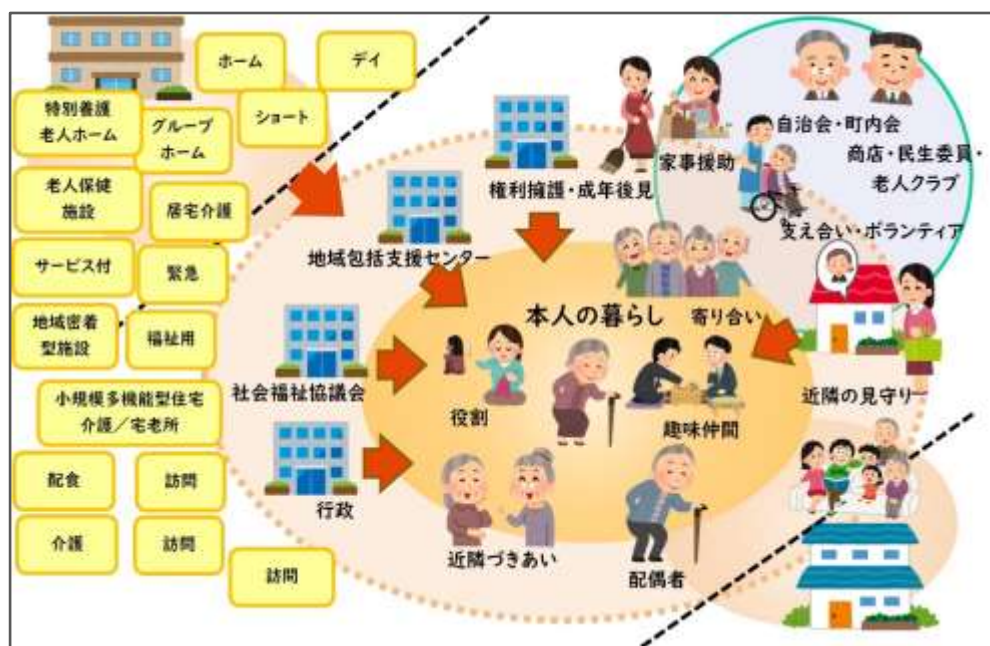
地域住民が主体となった生活支援・介護予防が図れるよう、地域支え合い推進員と地域住民や専門職・行政と一緒に学び、考え、工夫しながら地域づくりの推進をサポートする事業を言います。

調布市では平成27年4月に開始され、平成29年4月からは第1層（市全域）の地域支え合い推進員を高齢者支援室職員、第2層（福祉圏域）を調布市社会福祉協議会に委託し事業展開しています。令和5年10月に8つの全福祉圏域に各1名ずつ、第2層の地域支え合い推進員の配置を完了しました。

○生活支援体制整備事業のイメージ図



地域支え合い推進員は右図の矢印をつなぐ役割を担っています。推進員は、住民が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるよう、地域住民の主体的な活動を応援したり、住民や関係機関と一緒に地域づくりを推進する「つなぐ専門職」です



○地域支え合い推進員の活動イメージ図

地域にアウトリーチ※ します



自治会や地区協議会、ひだまりサロンなど、人が集う場に参加しています。地域の情報を共有していく中で、「実は…」と相談を受けることがあります。

移動は基本、自転車です！



活動の立ち上げ・運営のお手伝い



活動を続けていくために必要な情報を提供したり、悩みごとの相談を受けたりします。

お話を伺います



「こんな活動をしたい」、「こんなことで困っている」など、皆さんの思いをお聞きします。

一緒に考え。思いを形に



住民や関係機関、様々な団体と協力して、それぞれのできることを持ち寄り話し合います。

※アウトリーチ

窓口で待つのではなく、訪問すること

事例Ⅰ ～多世代が集う場 「みんな食堂仙川スープ」～

緑ヶ丘・滝坂
エリア

地域支え合い推進員：高杉

キーワード：高齢者の社会参加，多世代交流，地域の見守り

概要

- POSTO※Ⅰを利用して、みんな食堂（子ども食堂）を令和3年7月から現在まで毎月開催。コロナ禍で活動展示やテイクアウトに形を変えた月もあったが、食堂形式をメインに実施してきた。「食育」をテーマに食材や調味料にもこだわった食事に、大学教授と学生たちの絵本の読み聞かせや地域住民によるマジックが行われたり、ママがゆっくりと食事がとれるように乳児を抱っこするスタッフがいたり食堂には賑やかで温かな時間が流れている。
- 活動は3年目を迎え、月日とともに活動者・参加者が変化しつつも、地域住民から必要とされる活動になっており、地域の新たなニーズを受け止める大事な資源になっている。

きっかけ

- 令和2年3月、地域住民からPOSTOのオーナーへみんな食堂をやりたいとの相談があり、地域福祉コーディネーターとともに協議体を開始した。
- 代表者の、「子ども達の食支援がしたい、食育を通して生きる力を育てたい」との思いや、「近隣の店舗や商店街を活動に巻き込むことで、地域の活性化や新たなつながりづくりを目指したい」との思いが聞かれた。協議体を重ねるごとに想いに共感した民生委員や高齢者会食ボランティア、地域住民が集まり、「みんな食堂仙川スープ」が生まれた。
- 活動に参加しているスタッフから、自身が参加するひだまりサロンに見守りが必要な高齢者がいると相談を受けた。その方は独居で、日常生活に大きな問題はないが、買い物や準備が億劫になり食事への意欲が低下していて心配なので、何かできないかとのことだった。

現状の確認

- 仙川スープは誰でも自由に利用できる「みんな食堂」として開始したが、利用する層は子育て世代の親子が最も多く、高齢者の参加者は毎月数名程度だった。スタッフとして活動する側には、60歳以上の方が多く参加されている。
- 近隣に大規模な団地があり、老朽化による建て替えてご近所同士の交流が途絶えてしまった高齢者世帯が多く存在し、交流の促進や食の確保が課題となっている世帯があると地域の会議や民生委員から伺った。

スケジュール

- 令和3年5月から毎月協議体開始。
- 令和3年7月から毎月「みんな食堂仙川スープ」実施。

※I POSTO とは

京王線仙川駅から徒歩1分、郵便局の向かいにある、子どもから大人まで誰もが自由に利用できる屋内広場のようなスペース。平成30年に調布市緑ヶ丘に立ち上げた「ほんのもり(集いの場, 学習塾, テニス教室等を実施。現在は一部機能を POSTO に移し実施。)」を運営するメンバーが、クラウドファンディングや調布市の助成金を利用し、令和3年2月に現在の場所で立ち上げた。利用者の世代は幅広く、高齢者向けの10の筋力トレーニングのグループが活動している。



ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
● コロナ禍の影響で高齢者会食事業が中止しており、食支援の必要な高齢者にも食の提供（会食、宅配等）が可能になるのではないかな。 ● 高齢者にとって栄養のある食事を摂ることは介護予防にもつながるだろう。また食材にこだわった食堂であるからこそ、誰でも安心して利用できるだろう。 ● 食堂利用をきっかけに高齢者が地域とつながるきっかけになると良い。またスタッフや参加者も地域の高齢者のニーズを知る機会になる。 ● POSTO では毎週金曜日に10筋体操のグループが活動しているが、もっと高齢者がPOSTO を利用しやすい活動は何か知りたい。	● 支援の必要な高齢者について地域包括支援センターと共有を行い、自宅訪問に同行し生活状況を確認した。 ● 代表者に食堂の食事の宅配、また年2回行っているフードパントリー※2への参加了解を得て、対象者へ直接お届けした。 ● 担い手を増やすため、地域のサロン等へ出向き、世代関係なく食堂に関心のありそうな方に声掛けを行った。また農園サロンから野菜提供の協力をいただいた。 ● 毎月の活動では POSTO の前を通りがかる方や参加されている方に声を掛け、POSTO の紹介や参加した感想等を伺った。	● 地域のニーズを活動へつなげる役割として、地域の担い手であるスタッフとの連携を大事にしたい。 ● どの世代でも自身のできることを生かしてスタッフとして参加できるよう、また無理なく活動できることが大切だと考えた。 ● 協議体では活動者一人一人の思いを丁寧に聞き取り、他のメンバーへ共有した。 ● だれでも利用しやすいように料金設定した。

※2 フードパントリーとは、食品を無料で配布する活動



活動者の感想

- 社協さんに子ども食堂の始め方を相談し、仙川スーパの活動を始めてもうすぐ3年。利用者さんのリピーター率が上がるにつれ、顔を合わせた時の言葉の内容も変化しています。運営スタッフも10～70代と幅が広く、シニアの方の知識の引き出しは多く参考になることばかりです。一人ひとり違う世界観で食堂を利用・運営してくださることで、地域とのつながりが始まり、毎月あの場所に行けば食を通して人とつながることができます。交わる時間は一瞬かもしれないけど、同じ空間で過ごす時間はどこか温かいです。（食堂代表）
- 仙川スーパは、乳幼児から高齢者まで「理由なく自由に利用できる食堂」です。メニュー・食材（無添加）・調理などスタッフ独自の強みを活かして活動しています。高校生がケーキを作ったり小中学生が調理に参加したりと、幅広い参加者が「食」を通じてつながっています。食堂では、海苔まみれになり「っんまあ〜」と言いながら微笑ましい乳児さん親子が食べています。独り暮らしの高齢者宅には、お弁当をお届けしています。カタカナメニューに「なんだか珍しいものだなあ〜」と愉快的表情を浮かべていました。今後も地域につながり支え合う活動の一助になりたいと考えています。社協の方々には、活動の伴走に感謝します。（食堂スタッフ）

今後の展望

- スタッフから、地域で見守りが必要な高齢者について、相談を受けた。その高齢者が介護サービスへつながるまでの間、食堂の食事をスタッフが宅配し直接手渡しする取組を試行的に行うことができた。仙川スーパの活動が地域にあったからこそできた支援であり、大事な地域資源になっている。
- また、令和4年度から食事に困っている方に広く支援を届けたいとの思いで、年2回のフードパントリーも継続して実施。事前に申込みいただいた方に手渡しと配送の両方の方法で届けた。スタッフとして活動する地域住民にとっても地域のニーズや課題に気づいて行動を起こすきっかけになっており、引き続き活動を通して地域を見守っていただきたい。
- コロナ禍の制限が解け、今後は利用する子どもや地域住民と畑で野菜を育てて収穫し、一緒に調理をして食事を作れたらいいな、と構想中。
- 短時間だけ参加したり、活動に直接的に関わらなくても、食材の寄付を通して活動を支えてくださる高齢者もあり、広い世代での生きがいくりの場となっている。これまでも調理場所の変更やアレルギーを持つ子どもへの対応など、都度課題が生まれた際は、スタッフと一緒に考え、臨機応変な対応をしながら乗り越えてきており、今後も丁寧に寄り添いながら支援を継続していきたい。

事例2

「神代団地フードパントリー」

若葉・調和
エリア

キーワード：団体同士の協働，ニーズ把握

地域支え合い推進員：吉田

概要

●神代団地で、NPO 法人ニッポンベンガルフレンズサークル（以下、「NBFC」）※1主催，申し込み不要で、対象者は「東京都在住」であり、自分で取りに来ることができればどなたでも可としたフードパントリー※2を開催した。開催にあたり、NBFC とちょうわ地区協議会※3をつなげ、NPO 法人、地区協議会、社会福祉協議会が協働しフードパントリーの開催・運営にあたった。当日は181人の方が食材の受け取りに来場された。

【会場アンケートより】

10代以下：16人，20代～50代：59人，60代以上：64人（無回答：42人）

以上の通り、幅広い年代が食材を取りに来られ、その中でも60代以上の方が多かった。

※1 バングラデシュと日本の友好と交流を深める中で、在日バングラデシュ人の生活向上の支援と、バングラデシュ本国においては職業訓練校の開設や子ども達に対する衣服や食料支援を行う NPO 法人。令和4年度から、「ハラルフードパントリー」を実施。

ハラルフードパントリーについては R4 年度地域福祉コーディネーター活動報告書参照。



令和4年度地域福祉コーディネーター活動報告書
p28.「ハラルフードパントリーの開催」



NPO 法人ニッポンベンガルフレンズサークル
/調布市市民活動支援センターHP より]

※2 フードパントリーとは、食品を無料で配布する活動

※3 地区協議会とは、小学校区をコミュニティエリアとして、地域で活動する各種団体や地域住民が連携・協力し、地域のまちづくりのために自主的に活動するネットワーク組織。現在市内では18の地区協議会が設立され活動している。ちょうわ地区協議会では令和2年度から年に1度、調和小学校区に通う子どもを対象とした「ちょうわ地区協議会子どもフードパントリー」を定期的に行っている。

きっかけ

- 令和4年度実施したハラルフードパントリーでは、地域住民が非常に温かく良い雰囲気の中活動を行うことができた。また、この地域には外国人世帯が多く暮らしているということを知った。そのため、NPO 法人として今後も国際交流を推進する中で地域に根差した活動を行いたいとNBFC から相談を受けた。
- 前は「ハラル食※4」をテーマに在日外国人を対象としたフードパントリーを行ったが、今回は広く地域住民を対象として、神代団地でフードパントリーを開催したいとの意向であった。

※4イスラム教(ムスリム)の戒律によって食べることが許された食べ物のこと。イスラム教では「食べてよいもの」と「食べてはいけないもの」が細かく定められている。主に豚やアルコール等については制限されている。

現状の確認

- 令和4年度のハラルフードパントリーでは、食料の配布対象を「ハラル食」を必要とする方としたことで、食材を受け取りに来られた方は少なかった。「ハラル食」や「バングラデシュ」についても認知度が低く、地域につながりも無いことから、自治会や地域の活動団体などを紹介して欲しいとの相談を受けた。
- この地域では、以前からちょうわ地区協議会が子どもフードパントリーを開催しており、毎回80～90人の子ども達へ食材を配布していた。コロナ禍や物価高騰を受け、地域の子育て世帯を応援したいと始まった取組で、参加者からも「家計の助けにもなるし、イベントとして子どもも楽しみにしている」と好評である一方で、対象が中学生以下の子どもであること、保護者が「予約をすることができる」世帯が対象であり、本当に必要としている世帯に届いているのか、という声も運営委員からあがっていた。
- 地域にある神代団地は、来年築60年を迎え、開設当時の入居者の多くが後期高齢者となり、介護予防や生活支援のニーズが非常に高まっている。



ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
●この地域の強みとして、子どもに対する支援について非常に関心が高く、フードパントリーを含め様々な取組が行われている。一方で、社会福祉協議会の事業の1つでもある「高齢者会食」では担い手の高齢化により活動ができなくなるなど、高齢者の交流の場、食支援等インフォーマル資源が少ないと感じていた。 ●食料配布とともに社会福祉協議会の「調布ライフサポート」（生活困窮者自立相談支援事業）のチラシを配布し、生活上困難を抱えているが相談や支援につながっていない人に対しても情報が届くように考えた。 ●実際に申込み不要、先着順での配布としたことで、高齢・障がい・外国人世帯など様々な理由から「申込みを行うことが難しい」世帯でも食料を受け取りに来ることができた。	●NBFC の代表及び日本担当の方とともに地区協議会の運営会議に参加し、挨拶の場を設ける調整を行った。 ●NBFC とちょうわ地区協議会の有志による新たな協議体を設立した。 ●フードパントリーを行うにあたり、この地域は高齢者の参加が多いことが想定される等の、地域情報を共有した。 ●地域福祉コーディネーターと連携し、東京都のフードパントリー緊急支援事業の助成金申請の情報提供を行った。	●NBFC は「外国人支援」を目的とした NPO 法人、地区協議会は地域を基盤として活動している団体である。今回、「地域全体を対象とした食支援」という共通の目的をきっかけに活動同士をつなげたことで、良い相乗効果が生まれるのではないかの期待があった。話合いを重ねる中で、地域に様々な課題があることを共有することができた。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地区協議会運営委員会	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
NPO 法人 NBFC	○			○						○		○
協議体												○

活動者の声

- 子どもの貧困はもちろん課題ですが、今は子どもだけでなく大人も大変。大人こそ支援が必要な人が実はたくさんいます。NBFC の皆さんの、日本の皆さんにお世話になっているのでお返ししたいという気持ちは素晴らしい。外国の方ということで少し構えてしまったところもあるけれど、こちらの心配もぶっ飛ぶくらいフレンドリーで。楽しく活動できることは大切にしていかなければと思います。（民生委員）
- 日本でも物価は上がり続けていますが、給料は上がらないという状況の中、多くの人が大変な思いをされていると思います。けれど日本人は「恥ずかしい」という気持ちが強く、助けを求めることが難しい人も多いのだと思います。こういったイベントに来る人の中に、1人でも支援を必要とする人がいて、支援とつながるきっかけになるのなら、日本でもフードパントリーは必要な取り組みだと思ひ、続けたいと思います。その活動の中で自分達のことも知ってもらいたいです。（NBFC スタッフ）

今後の展望

- 「子ども食堂はあるのに、何故シニア食堂は無いのか？」
地区協議会の運営会議の中で、フードパントリーや子ども食堂についての協議がなされる中、毎回声をあげてくださる方がいました。今回フードパントリーを行った結果、多くの高齢者の参加があり、「地域でも高齢者の支援を充実させて欲しい」と訴えていた運営委員の声がより実感を持って理解されることとなった。
- 今回、150食想定で食材を用意し整理券の配布を行った。整理券は開始5分を待たずに配布が終了し、残った物でも良いから…と整理券分の食材配布が終わるまで、小雨の降る中近くで待たれている方もいた。その様子を見た NBFC のスタッフから、次回はもっと多くの必要とする世帯に届けられるよう工夫したいとの話があった。どうすれば地域のニーズと取組をマッチングすることができるか、地域住民や支援団体・機関と考えていきたい。

事例3

ラジオ体操講習会の実施

上ノ原・柏野
エリア

キーワード: 介護予防, 身近な地域での活動

地域支え合い推進員: 伊藤

概要

- 全国ラジオ体操連盟の講師を招いて、ラジオ体操講習会を実施した。
- ラジオ体操講習会の参加者に講習会終了後アンケートを実施し、地域住民のニーズ調査を行った。

きっかけ

- 地域包括支援センター至誠しばさき(以下、「包括」という。)主催の介護教室で、全国ラジオ体操連盟公認の講師から、ラジオ体操の体の動かし方を教えてもらえる講習が大変好評であった。しかし、地域活動の場に出向き住民の声を聴いたところ、坂が多く、起伏のある地域のため会場に行けず、参加したくても参加できなかった住民がいることがわかった。
- 地域活動に参加し、住民の方とお話する中で、体操等の介護予防や健康増進の活動に関心がある地域住民が多くいるのではないかと感じていた。

現状の確認

- 坂の多い地域性を踏まえ、包括主催の会場とは別の場所でラジオ体操講習会を企画したところ、すぐに定員に達し、当日は23人が参加された。
- 自宅でラジオ体操をしているが、市が推奨している高齢者向けの体操である10の筋力トレーニング等の活動には参加していなかった方の参加につながり、社会参加のきっかけとなった。
- 包括主催のラジオ体操講習会に参加していなかった方が多く参加された。
- 参加者にアンケートを実施したところ、15人の方に回答いただいた。この講座の参加理由(複数可)については、9割の方が「関心のあるテーマだった」と回答された。また、「今後、月一回程度、日中に菊野台地域周辺で、ラジオ体操の会があれば参加したいですか(講師なし)」との問いには、半数以上の方が「はい」と回答され、ニーズを把握できた。
- ラジオ体操講習会に参加された方の中で、定期的に講師を呼んでラジオ体操の会を開催したいと思う方がいた。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域支え合い推進員として配置							○					
アウトリーチ							○	○	○	○	○	○
広報									○	○		
講師調整									○	○	○	○
ラジオ体操講習会												○

ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
● 包括が主催したラジオ体操講習会に参加したくても参加できなかった方々が、通いやすい会場はどこだろうか。 ● ラジオ体操という親しみやすい体操の講習会を行うことによって、今まで地域活動に参加していなかった方も参加しやすいのではないかな。	● ボランティアコーディネーターと連携し、広報を行った。 ● 地域活動を行っている団体だけでなく、包括が主催した「AI 歩行測定会」でも周知を図った。地域活動にあまり参加していない方もいたが、この測定会に参加した方の中から4人の参加申込みがあった。	● ラジオ体操講習会の参加者にアンケートを行い、住民の方々の興味のある講座や活動のニーズ調査に努めた。

参加者の感想

- 自分勝手な体操をしていたので少し疲れましたが、気持ちの良い動きになりました。
- 詳細に説明していただいたので、楽しく学べました。
- 正しく勉強できました。

今後の展望

- アンケートの結果から、ラジオ体操は地域住民のニーズがあることが分かった。今後継続的に取り組めるよう、参加者とどのような活動にしたいかを一緒に考えていきたい。
- 興味・関心がある事柄についてアンケートで質問したところ、「医療・病気」と回答の方が一番多かった。具体的にどのような関心や困りごとがあるか、今後も地域の場に出向き、住民の方と接する中で把握していきたい。
- 下肢筋力の低下などで行動範囲が狭くなった方でも身近に通えるような「場」があることで、見守りや生きがいづくりにつながると考えられるので、今後もそのような「場」をつくるサポートをしていきたい。



事例4 ただそこにいるだけで力になる 子ども食堂深大寺東町小規模カレー食堂

北ノ台・深大寺
エリア

地域支え合い推進員：志村

キーワード：高齢者の社会参加, 多世代交流, 施設の地域貢献

概要

- 令和5年度から「ゆっくり、こじんまり、少人数で」をテーマに、高齢者を含む多世代を対象とした「小規模カレー食堂」を始めた。
- メニューは毎回カレーで、偶数月に予約なしの定員 20 名で開催している。
- 場所は通所介護施設である、「あいケアデイサービス深大寺」。普段は高齢者が通う福祉施設が、偶数月の第2日曜日は多世代交流の場となっている。

きっかけ

- 「施設で子ども食堂をやりたい」との思いを持ったあいケアデイサービス代表者が関わり、子ども食堂深大寺東町が活動を開始した。しかし、コロナ禍のフードパントリーを経て地域に周知され、あいケアデイサービス深大寺を会場として使用するには人数的に厳しいと判断した。
- そこで、「あいケアデイサービス深大寺だからこそ、少人数でゆっくりできる良さがあり、大人数が苦手な方でもここなら来られるのではないか？」という思いが生まれ、偶数月の小規模カレー食堂を始めることになった。

現状の確認

- 利用者として来た高齢者も、ただその場にいるだけで子どもの見守りという役割を果たしている。
- 調理や遊び場コーナー、見守りなど、高齢者が自身の得意分野を活かしながら活躍し、各々ができることをできる範囲で行える機会になっている。
- 高齢者と子どもが互いに交流を持つ機会が少なくなっている時代の中で、高齢者・子ども・様々な世代のスタッフが関わり合える、多世代交流の場になっている。
- 参加された高齢者が悩みを話す場面もあり、地域ニーズを把握できる機会にもなっている。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体	○		○		○		○		○		○	
小規模カレー 食堂の開催	○		○		○		○		○		○	

ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員の行ったこと

考えたこと

- 子どもたちが遊ぶ様子を高齢者が見守ることで、役割を担うことができる。
- 地域の高齢者が子どもたちを見守ってくれることで、保護者もゆっくりと食事をとることができ、保護者同士の交流も生まれる。
- スタッフや参加者が高齢者の様子を見守る場にもなっている。
- 少人数だからこそそのニーズがあるのではないか。
- スタッフとして参加している大学生や現役世代含め、多世代でゆっくりと交流できる貴重な場である。

働きかけたこと

- 地域の高齢者から寄付していただいた食材を子ども食堂につなげ、寄付という形で地域貢献をサポートした。
- 地域包括支援センター等支援機関への情報提供を行った。
- 地域福祉コーディネーターが関わっている方や、地域とのつながりを求めている高齢者に紹介した。
- 地域で居場所を開いている方々をお呼びし、子どもに関する地域の支援者の輪を広げた。

大切にしたこと

- 食堂にいらした高齢者や保護者が悩みを話してくださる場面もあるため、ゆっくりと話を聞く時間を大切にした。
- スタッフだけでなく、利用者や食堂への寄付等その人に合った方法・できる範囲での社会貢献・地域貢献ができるようサポートした。

活動者・参加者の感想

<活動者>

- 今後はもっと「多世代」をテーマに活動していきたい。
- 高齢者の方々が特技を活かしながらいきいきと活動する様子や、よろこんでいる様子が見られてうれしい。
- 子どものために何かできればと思い始めたが、自分のためにもなっている。色々な世代がいて関わることで勉強になる。
- シニアも食事に来ているので、シニア向けのレクリエーションもやってみたい。
- 定期的にボランティアがあることで生活のリズムになっており、楽しみにしている。

<利用者>

- 子どもたちとふれあうことができる時間がうれしい。
- 高齢者の方々の目があることで、地域に見守られながら子どもが成長していることを感じる。

今後の展望

- 地域活動の中で、「高齢者は日頃寂しさを感じている」という高齢者の声を聞いた。核家族化が進み、高齢者の孤食が増えている中で多世代を対象とした食堂があることは、地域にとって大切な資源であると考えている。
- 地域の高齢者が利用者、スタッフ、寄付など、その方に合った参加ができるようつないでいきたい。
- 来年度はさらに多世代をテーマにしていきたいという子ども食堂の意向を大切に、地域福祉コーディネーターと連携ながら様々な世代の住民を呼び、交流できる場にしたい。
- 日頃ひとりで食事をしている高齢者に情報が届くよう、地域包括支援センター等の支援機関への情報提供を引き続き行っていく。
- 令和6年度からはランチ調布ふじみ交流プラザで小規模カレー食堂を開催する。場所が変わっても少人数でゆっくりとできるよさは今後も大切にしていきたい。



事例5 地域 みんなが知り合う場所 「二小地区もりあげ隊」

第二・八雲台・
国領エリア

キーワード: 多世代交流, 高齢者の社会参加, ニーズ把握

地域支え合い推進員: 矢田

概要

- 第二小学校エリアの様々な世代が顔見知りになって、気軽に声をかけ合える地域にするために、「二小地区もりあげ隊」を立ち上げ。多世代が集えるよう、子育て世帯向けにフードパントリーを開催。その中で新たな気づきがあり、「子ども食堂」を開催。子どもから高齢者まで様々な人たちが同じ場所でおいしく、あたたかい食事を楽しみ交流を図った。

きっかけ

- ひだまりサロン「サロン・ド・わきあいあい」の代表者・スタッフから、第二小学校エリアでは、コロナ禍以降、多世代交流を図る地域活動の減少、自治会への加入率の低下、隣近所にどんな人が住んでいるのかわからない…等の地域課題があがった。また、自治会でも地域の大人や高齢者が子どもたちを見守る機会をもてると良いのではないかと、そして学校以外の行き場所が地域の中にあることで、保護者や教員以外の地域の大人や高齢者が、子どもを見守っていると感じる経験をつくれないう…との思いから、第二小学校エリアで多世代が知り合う地域活動を行う「二小地区もりあげ隊」を立ち上げることとなった。

現状の確認

- まずは、地域活動として何を行うか？スタッフは？開催場所や頻度は？等を整理するため、地域福祉コーディネーターと連携し協議体を開催。
- 第二小学校エリアには、大人数で利用できる公共施設が少なく、活動場所がなかなか決まらなかったが、通いやすく使いやすいという意見から、布田南ふれあいの家を活動場所とした。まずは地域の人が必要としていることを把握するために、令和4年12月にフードパントリーを開催し、アンケートを実施。また参加者から「この食料で年末年始が越せます。」との声を聞き、食事支援の必要性が高いことや、食堂を開催するにあたって地域の高齢者の活動参加も期待できる側面を踏まえ、多世代が参加できる子ども食堂を2～3カ月に一度、定期的で開催し、「二小地区もりあげ隊」を認知してもらうことから始めることとなった。

ニーズの実現に向け、支え合い推進員の行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
●「二小地区もりあげ隊」のスタッフで、無理なく今できること、やりたいこと、必要な資源は何かを話し合う。 ●地域福祉コーディネーターとともに、どのような支援ができるのか。 ●第二小学校エリアの地域活動について、把握できていなかったため、「二小地区もりあげ隊」の活動が立ち上がることによって、新たなつながりや活動の広がりが生まれるのではないか。	●食堂を継続的に活動していくためには、調理経験のある方の協力が必要と考え「調布市いきいきクラブ調理運営協議会」で調理活動に長く取り組まれている方に協力を依頼した。 ●食堂の参加者から10筋体操ができる場がこの地域に無いから欲しいとの意見を受けた「二小地区もりあげ隊」代表と地域包括支援センターが協力し、活動場所として使用できるよう圓福寺のご住職に相談。ひだまりサロン「サロン・ド・わきあいあい」は月1回の活動であったが、10月から月2回とし、1回は10筋体操を行うことになった。	●「二小地区もりあげ隊」代表・副代表の、この活動を大事に続けていきたいとの気持ちを大切に、活動を支援した。 ●スタッフのつながりで、参加者や活動に協力する方が増えている。地域のネットワークを大切にして、活動を広げること。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体	○	○				○		○				
パントリー									○			
食堂開催			○				○		○			○

活動者・参加者の感想

- こうやって地域の人に喜ばれることができて嬉しい。動けるかぎりお手伝いをずっと続けていきたい。（「二小地区もりあげ隊」スタッフ）
- 日頃、高齢者の方々と接する機会が親子で無いが、おいしい手作りの食事を食べながら、少しでも会話ができたのが嬉しかった。（参加者）

今後の展望

- 「二小地区もりあげ隊」立ち上げ時の思いである、第二小学校エリアに地域の人々の顔が見えるつながりをたくさんつくっていくためにも、安定的な活動場所の確保が必要。子どもから高齢者まで、気軽にふらっと立ち寄れる場所・部屋＝拠点を今後も探していく。
- 食堂だけではなく、参加者同士の交流が生まれる場を通して、地域の資源を増やしていきたい。「サロン・ド・わきあいあい」で10筋体操の活動に広がったように、「二小地区もりあげ隊」の活動から地域の人々の輪が広がり、新たな活動へと展開していくことを目指し、地域住民の活動を一緒にサポートしていく。



事例 6

～みんなの部屋～

キーワード：多機関協働，常設の居場所

染地・杉森・布田
エリア

地域支え合い推進員：北島

概要

- みんなの部屋は，多摩川住宅仮店舗商店街で令和 5 年に 3 月に開始した居場所。
- 民生児童委員，自治会・管理組合，商店街，地域包括支援センター，ボランティア，東京慈恵会医科大学，住宅供給公社，地区協議会，児童館，活動団体，団地外の近隣住民，NPO 法人，行政，社会福祉協議会などにより協議体を組織し，多様な機関・団体の協力・協働によって運営を行った。
- 4 月から本格的に開所し，1 年間で主催や共催によるイベント・活動を 137 回開催して，総勢 3,000 人が訪れたが，商店街の建て替えに伴い令和 6 年度中に閉所することとなった。

きっかけ

- 約 4,000 世帯が住む多摩川住宅の各自治会・管理組合から，「高齢化に伴い，天候や気候に大きく左右されない近場に出かけ先があればいいのに」，「団地の中央に位置するスーパーや銀行，郵便局の行き帰りにふらっと立ち寄れる休憩場所が欲しい」，「新旧住民が知り合い，親睦を深める場が欲しい」，「気兼ねなく集まり，活動ができる場があったらいい」といった地域住民のニーズを，日々の訪問を通じて聞いていた。
- 併せて，地域包括支援センターからは，「市内で高齢者が最も多い地域で，10 筋体操をはじめ，講座や企画をする場所がない」，東京慈恵会医科大学からは，「地域活動に参画したい」といった専門機関のニーズも把握していた。
- 団地内の複数の自治会・管理組合が行う活動は，これまで夏まつりが主だったが，みんなの部屋を介した日常的な関わりの中で，行政区域や自治会・管理組合の枠を超えた関係性が構築されたことで，様々な活動が展開された。
- 新しくできたネットワークと既存のネットワークが結びつくことで，新しい層の参加者や担い手が地域活動に関わるきっかけになった。

現状の確認

- 高齢者が多い地域である認識を、多くの地域住民が感じている。
- 「何かしたい」と思う地域住民が老若男女問わず複数名いるが、きっかけがないという声があった。
- 「もっと地域に働きかけたい」と思う専門機関は、拠点を探していた。
- 地域イベントでアンケート調査をした結果、「集える場所が欲しい」という意見が一番多かった。
- 昨年夏に、高齢者が買い物の行き帰りに熱中症になり救急搬送されるケースが、住宅内外の周辺地域で相次いだ。
- 多摩川住宅は2市に跨っているが、行政区域は関係なく往来が盛んであり、周辺の住戸には多摩川住宅から移り住んだ“元住民”も多く、関係性があった。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体(運営委員会)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
みんなの部屋行事				○○	○	○○	○			○		○
慈恵医大 みんなの保健室	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映画観賞会	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○
10 筋体操						○○	○○	○○	○○	○	○○	○○
包括ときわぎ国領 地域講座等	○	○○ ○	○		○	○	○	○	○○ ○	○	○	○
染地児童館				○			○				○	
にぎわいのある街を つくる会	○	○○	○	○	○	○	○	○	○○		○	○
染地小地区協議会	○										○	○
企業等への有償貸出			○○ ○			○○ ○○	○○ ○	○○ ○	○○ ○	○○ ○		○○
地域活動への貸出			○	○		○		○○			○○	○○ ○○ ○
実習・見学受け入れ		慈恵 医大	社協		日本 大	慈恵 医大	武蔵野 大	社協	社協			

ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
●コロナ禍によって奪われた地域の交流を取り戻す一助になるのではないかな。 ●他市や他県の事例から、居場所があることが、多くの地域活動の促進につながるのではないかな。 ●この取組を通して、多くの人に地域支え合い推進員を知ってもらうことで、更なるニーズの獲得につながるのではないかな。 ●多摩川住宅外の方にも門戸が開かれた活動にしていきたい。	●特に重要だと考える「人・物・場所・資金」のうち「資金」の調達に注力し、「人・物」は協議体に参加する地域住民や専門機関のつながりで広がっていった。 ●スーパーバイザーの助言を意識し、居場所をつくって終わりにならないように「常に新しい目標」を持ち、協議体の熱量を失わないような「盛り上がり」をつくるよう働きかけた。 ●協議体の意向をもとに、活動を残せるよう嘆願書を作成し、3 度に渡り住宅供給公社との話し合いを行った。	●地域住民と専門機関の協働で進める歩調を大切にするため、テーマに合わせて参加が可能な出入りしやすい協議体を目指した。 ●活動してみたい人の意欲を大切にし、地域で試行錯誤できるような場にする心を掛けた。 ●「とにかくやってみよう」という協議体の思いを大切に伴走した。

活動者の感想

- とても使いやすい「場所」でした。いい街にはいい場所があるものですが、みんなの部屋はまさにそういった場所でした。
- みんなの部屋の温かさや解放感は自由な発想を生み、多くの活動が企画・実施される原動力になったと思います。毎回イベントに 100 人近い人が集まったこの場所は、まさにみんなの部屋でした。
- 調布市・狛江市と行政区を超えた貴重な「場」。ここで怯^{ひる}むのではなく、新たな活動の場を見つけて継続ができるよう願っています。

今後の展望

- 「みんなの部屋」は終了しますが、協議体は解散せず、兼ねてから活動していた近隣住宅の空き部屋を利用した協議体「@たまルーム」と併合して、活動を継続していきたい。
- みんなの部屋の活動を通じて、高齢者が支援を受けるのみではなく、子どもや高齢者同士を支える相互の関係性もまた重要であることを改めて認識したことから、高齢者が支え手となるような活動も模索していきたい。
- みんなの部屋のクロージングイベントに併せて行ったアンケート調査からも、地域住民が「居場所」を必要としていることが確認できたため、今後の地域への働きかけの一助として、みんなの部屋の活動が記憶に残るよう、これまでの取り組みや記録を冊子として残したい。
- 今回の事例は、「第1層地域支え合い推進員」（高齢者支援室）が実施する「調布市常設通い場スタートアップ補助金」を活用することで、充実した取り組みを行うことができた。今後も、第1層と第2層が連携することで、地域活動のより一層の推進を図っていきたい。

問1) みんなの部屋に入ったことはありますか？

はい ☐ いいえ ☐

問2) みんなの部屋のような多世代が交流できる場は必要だと思いますか？

必要 ☐ 不必要 ☐

アンケート



事例 7 第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス、 第1層、地域包括支援センターと連携した 取組「はつらつ筋陽会」

第一・富士見台・
多摩川小エリア

キーワード:企業連携, 介護予防, 体操グループの自走化

地域支え合い推進員:金子

概要

- 調布市高齢者支援室の介護予防普及啓発事業「ステップアップ教室」※1の卒業生による体操のグループと、地域貢献として活動場所提供を提案して下さった第一生命(株)新宿総合支社調布営業オフィス(以下、「第一生命」という。)をつないだ。
- 令和5年11月にオフィスの見学, 10の筋力トレーニングのお試し実施, 及び会合を行った。その後, 令和6年1月に講師を招いて初回の体操を行い, 現在は第2・4金曜日に活動を行っている。
- ※1 調布市の介護予防普及啓発事業の一つで, 運動, 栄養, 認知症の予防等, 総合的な介護予防を行うもの。

きっかけ

- 第一生命から調布市高齢者支援室(以下, 「第1層」という。)に地域貢献をしたいというご相談をいただき, 第1層とともに第一生命に訪問して話を伺った。第一生命が実施可能な内容としては, チラシ配りの協力や第一生命の職員に向けたPRの場の設置, 住民の活動場所としてのオフィスの貸し出しであった。
- 「ステップアップ運動教室」の参加者たちから「運動教室が終わってほしくない」という声が上がった。参加者が教室の卒業後も継続して活動できる場所を探していたことから, ご提案いただいた第一生命のオフィスを紹介することになった。
- 第一生命に協力いただくことで活動の場が生まれ, 打ち合わせを進めていく中で, 参加者同士がアンケート調査を行ったり, 体操の講師と交渉したりするなど, 実際に行動に移すことで自主グループ「はつらつ筋陽会」が立ち上がった。

現状の確認

- 現在は第2金曜日に自主的な体操(10の筋力トレーニングやコグニ体操), 第4金曜日は講師を招いての体操をしている。10の筋力トレーニングは地域包括支援センターちょうふ花園(以下, 「包括」という。)からレクチャーを受けた。
- 第一生命からコグニ体操のDVDをご提供いただき, ぜひ活用したいという話がでた。オフィスで視聴する方法がないか相談したところ, DVDの投影機を貸し出してくださることになった。
- ステップアップ運動教室は年に3回行われており, 都度卒業生が誕生していることから, 希望があれば見学や受け入れを進めていけるように調整している。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第一生命との協議体								○	○			
はつらつ筋陽会との協議体								○	○	○	○	○
10の筋力トレーニング お試し会・会場見学							○	○				
新グループ活動開始									○	○	○	○

ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと

- ステップアップ運動教室の参加者が教室を卒業した後も、健康維持のため、継続して身体を動かす機会を持ってほしい。
- はつらつ筋陽会の活動が継続していくためには、地域支え合い推進員として何ができるだろうか。
- 担当圏域の調布駅前には交通の便が良く、大きな商業施設や商店、企業が立ち並んでいることから、協力・連携を図ることは可能か。

働きかけたこと

- 第一生命・・・どのような地域貢献活動に関心があるのか。また、それらは実施可能かということを直接聞き取り、連絡調整を図ったりした。
- はつらつ筋陽会・・・まずは第1層と包括、社会福祉協議会の役割を説明。その後は連絡調整をしながら調布市内で自主的に活動している体操グループやひだまりサロンとして活動している他団体の情報提供と見学の同行を行った。また、第1層、包括とも密に情報共有をした。

大切にしたこと

- はつらつ筋陽会の参加者が負担なく活動を継続していけるように一緒に考え、情報共有をした。
- 企業側には本業務があるため、大きな支障なく関わっていただけるように調整した。
- 第1層、包括とは都度情報共有し、役割の確認や対応の方向性を確認することで、携わっている方々に混乱が生じないよう努めた。

関係者・活動参加者の感想

<関係者>

- 今回の取組みに賛同させていただいたのは、弊社職員の飛び込み活動がきっかけとなります。弊社のお客さまにお役に立つ情報提供として、調布市の福祉圏域 8 か所に配置されている地域包括支援センターについてのチラシのお届け活動を実施してまいりました。また、地域活動に必要な「場所の提供による支援」があるということを知り、毎月第2・4金曜日に「はつらつ筋陽会」の方々に場所のご提供を行っております。調布市が実施している「介護予防活動」に役立つ取組みとして、今後も継続してまいりたいと思っております。（第一生命）
- 運動を継続している事で、姿勢も良くなり、身体の可動範囲が大きくなったように感じます。細く長く、身体活動はもちろんですが皆様が心地よく集まれる場であると良いなあと感じます。（体操講師）
- 楽しく体操したいという気持ちが調布の健康寿命を延ばすことにつながります。ありがとうございます。今後も、応援していきます。（包括）

<はつらつ筋陽会メンバー>

- ステップアップ運動教室に参加をして歩く改善が見られた後、活動継続の発起人から会長のご指名を受け、会に参加の皆様、幹事・会計さんの協力を得て、運営方法を確認して「はつらつ筋陽会」を立ち上げました。今後は自主独立し、会員間の親睦を深め、自身で元気に年齢を重ねていけるよう努めていきたいと考えています。
- 本当に元気になりました。家の内から外へ!! 年を経て家に引っ込むのではなく、社会・地域とコミュニケーションを取ることは本当に大切なことだと思いました。新たな心の繋がり、会話と笑顔の輪がひろがるように、全員の笑顔とエネルギーで活動を継続させていきたいです。
- 介護予防教室では、健康で元気な高齢者でいるためには「フレイル」予防※2として、身体活動・栄養・社会参加の3つが大切なポイントであると学びました。この活動は、まさにフレイル予防そのものです。無理のない筋トレを中心とした運動、仲間（会員）との交流は、体も心も笑顔になれる活動です。仲間と協力して活動できることに感謝し、楽しく参加しています。

※2 年齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態となるリスクが高くなった状態を「フレイル」といい、フレイルを予防することは、その先にある要介護状態の予防につながり、健康寿命を延ばす。フレイル予防に大切なポイントは、「栄養」、「体力」、「社会参加」、それに「口腔」の"3プラス1"で、「食べて、動いて、人とつながる」というライフスタイルが効果的。

引用文献：東京都福祉局「知っておく!からはじめる人生100年時代の介護予防・フレイル予防」東京都介護予防・フレイル予防ポータル

今後の展望

- 調布駅前には交通の便が良く、大きな商業施設や商店、企業が立ち並んでいる。そういった環境であることから、住民の方々がより良い生活を送っていただけるように企業や商店等とのつながりを大切にしていきたい。今回のように「地域貢献がしたい」と相談を受けた際には、どういったことができるか一緒に考えたり、本事例をもとに発信したりすることで、地域活動の幅や参加の場が広がってほしい。
- 健康寿命を延ばすため、自主的に体を動かし、交流できる「はつらつ筋陽会」のような取り組みが調布市内全域に増えてほしい。
- 調布市の現状として男性の参加者が少ない傾向にある。フレイル予防という観点からも、こういった運動の機会や自身に合った社会参加の場を見つけられるように働きかけていきたい。



事例 8 生活支援サービス～おてつだい隊～

「地域の支え合い活動を広げたい」

キーワード:ちょっとした困りごと、支え合い活動

第三・石原・

飛田給小エリア

地域支え合い推進員:佐藤

概要

- 令和5年3月富士見町に地域の居場所「ふふ富士見」がオープンした。地域の様々な人が集い、そこで知り合いができるなど、つながりの輪が広がり地域の多くの声が寄せられるようになった。ふふ富士見を利用する高齢者から、「電球交換や高いところの荷物を下す」など、日常生活のちょっとしたお手伝いを、すぐに頼める人がいない等の声が聞かれた。
- ふふ富士見のメンバーで、以前から30分1000円でちょっとしたお手伝いを行う、「まごのて」の活動を行なっているメンバーが、より低額かつ短時間で解決できるようなお手伝いを頼みたい人が多くいることを知った。
- そのような声から、「ちょっとしたお手伝いを気軽に頼める人がいれば、もっと安心して生活を送れるのではないか?」との思いから、まごのてメンバーを中心に、5分程度で対応可能なちょっとしたお手伝いを300円で行う「おてつだい隊」の活動が始まった。
- この活動を気軽に利用して、住み慣れた地域で安心して生活してもらいたいというメンバーの思いから、この支え合い活動を広げるための検討や広報活動などの働きかけを一緒に行なった。

きっかけ

- ふふ富士見の利用者の声から、おてつだい隊の活動がスタートしたが、ふふ富士見利用者以外からの依頼があまり増えない。
- この活動を必要とする人へ、情報を届けて、ちょっとしたお困りごとの、お手伝いをもっと気軽に安心して依頼できるようにしたい。

現状の確認

- 地域のひだまりサロン等の、地域住民の方が多く集う活動へ訪問する中で、主に高齢者の日常生活で、どんなことに困り手伝ってもらいたいと感じるのか把握を行った。
- 地域住民の方へ、おてつだい隊の活動を紹介する中で、依頼する際に「顔が見える関係だと頼みやすい」、「気軽に頼める金額だとありがたい」など、依頼しやすくなるためのヒントを伺った。
- おてつだい隊のメンバーと実際に利用につながった経路の確認と、地域住民の方へ活動紹介で得たヒントを基に、どのような広報が有効なのか、また、安心して依頼することにつながるのかを検討した。

スケジュール

月／内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
協議体	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○
活動の周知	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニーズの把握 情報提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
助成金等の活用の検討	○						○			○	○	○
他市の協議体視察 活動者間の情報交換											○	○

ニーズの実現に向け、地域支え合い推進員が行ったこと

考えたこと	働きかけたこと	大切にしたこと
●介護保険等のサービスでは対応できない内容にも、対応することができる。 ●利用した人が知人へ紹介することや、依頼前にふふ富士見で、知り合えることが安心して依頼できることにつながるのではないか。 ●地域包括支援センターやケアマネジャーが、この活動を知ることによって、このような活動を必要とする方につながりやすくなるのではないか。	●高齢者の方の相談や人、情報が多く集まる、地域包括支援センターや地域福祉センター、ボランティアコーナー、公民館などへ同行し活動の周知を一緒に行なった。 ●地域で開催される会議や活動でチラシの配布、活動紹介を行い、必要とする人へ情報が届くように働きかけた。 ●市内で活動する他の団体にも声掛けし、他市で行われている助け合い活動の協議体に参加して情報収集を行なった。	●支え合い活動をやりたいと立ち上がった団体が、活動を継続できるように働きかけることが、活動を広げることにつながり、結果的に新たに活動を始めたい団体も増やせるのではないか。 ●利用者から、依頼前から依頼後の感想を聞くことで、新たな利用者につなげたい。 ●活動者と依頼までの経路、依頼内容の情報交換を行うことで活動を広げるヒントを得る。

利用者の感想

- 依頼してすぐに、ちょっとした困りごとを手伝ってもらえて助かる。
- 顔の見える関係だから安心して依頼できた。
- 朝のゴミ出しも対応してもらえるのは助かる。
- 知人にもおてつだい隊を紹介した。

活動者の感想

- ちょっとしたお手伝いをして、「助かったありがとう」の声にやりがいを感じる。
- おてつだい隊の利用だけでなく、ふふ富士見を利用するきっかけになってほしい。
- 支え合い活動が根づくのには、時間が掛かる。
- もっと、依頼したい人が安心して利用につながるようになってほしい。

今後の展望

- 身近な地域でちょっとしたお困りごとを、助け合えるような輪が広がってほしい。
- 初めての人も、支え合い活動を安心して利用してもらえるように、「セカンドライフ応援キャンペーン」を活用した登録や情報発信、活動を広げる仕組みづくりを第1層地域支え合い推進員（高齢者支援室）等と検討したい。
- 支え合い活動が安定して活動継続できるように、地域の団体等と連携した作業依頼を受けられる仕組みづくりを考えたい。



市全体的な活動(第1層)

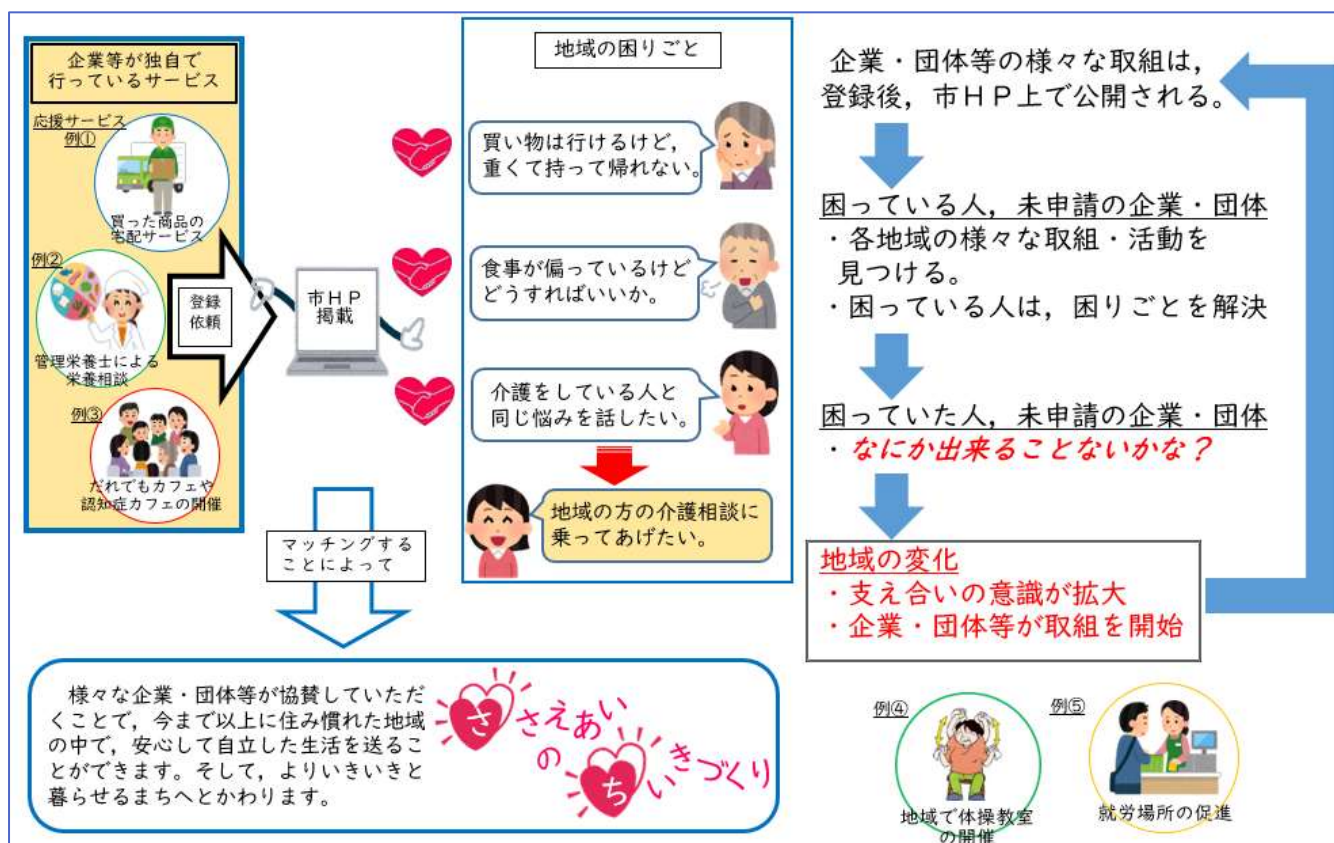
セカンドライフ応援キャンペーン



「セカンドライフ応援キャンペーン」は、高齢者が自立した生活を送ることができるよう、企業や地域団体等が行う独自の支援、サービス、地域活動等を集約し、公表するキャンペーンです。多様な取組等を集約し、見える化することで、その取組を必要とする人とのマッチングを支援することが出来ます。また、多様な取組等を行う企業等とのネットワークを構築することで、支え合いの地域づくりを推進します。

また、セカンドライフ応援キャンペーンのセカンドライフとは、辞書では「第2の人生」、「特に定年退職後の人生」となっていますが、本キャンペーンでは、高齢者に限らず、これまでの生活の中心であった仕事や家事、育児などに区切りがついたことで始まる新たなライフステージと定義しています。具体的には、「親の介護を始める」、「定年退職後に地域活動を始める」、「今までやったことのない趣味活動を始める」、「地域のボランティアを始める」などの新たなライフステージを応援するものです。

～セカンドライフ応援キャンペーンの流れ～



このキャンペーンを協賛する企業・団体の数は令和6年3月31日現在で、見守り活動が75団体、活動の場の提供が3団体、生活支援サービスの実施が13団体、活動場所の提供が6団体、介護予防活動支援が8団体、その他、スマホ講座や多世代交流の場などが6団体の合計111団体です（一覧はP37の【資料編】参照）。令和5年度は新たに3企業・団体に「見守り活動」で登録いただきました。

●協賛企業・団体との連携

【明治安田生命保険相互会社】「介護予防活動支援の実施」

・講座の提供・・・調布市シニアクラブ連合会で年3回実施している“みんなの健康教室”において、講座『良い睡眠のための睡眠環境』を実施。地域包括支援センター主催の地域ケア会議等で、講座「在宅避難のススメ!」「認知症予防の秘訣」「健康維持の秘訣」など計9回実施。

・健康測定機器の貸出し・・・地域包括支援センター、ゆうあい福祉公社、調布市高齢者支援室が主催・参加するイベントで健康測定機材を計25回活用。

(健康測定機器:血管年齢・ベジチェック・ヘモグロビン・骨密度・自律神経測定)

・大人の塗り絵・・・調布市枠を設け、【明治安田生命主催:第3回大人の塗り絵コンクール】を実施。89作品が集まり、9月12日(火)~9月29日(金)までの18日間、文化会館たづくり1階で展示、及びステキな作品への投票を実施。総投票数414票。上位5名には明治安田生命保険相互会社より、「サクラクレパス太巻き12色」を贈呈いただいた。



【第一生命保険株式会社】「介護予防活動支援の実施」「活動場所の提供」

- ・第一生命保険株式会社と国立長寿医療研究センターが協働し作製した「コグニ体操」DVDの提供。市が推奨している10の筋力トレーニングの自主グループにおいて、活用している。
- ・調布営業所3階の空いている時間の提供・・・調布市高齢者支援室の介護予防普及啓発事業「ステップアップ教室」卒業生の自主グループ“はつらつ筋陽会”の活動場所として第2・第4金曜日の午前中に活用。10の筋力トレーニング、提供いただいたDVDを活用したコグニ体操、講師を招いて体操を行っている。交通の便が良く、近隣の方だけでなく広く集えることから、今後も関係機関と連携しながら、市内高齢者の健康や交流の場として有効活用させていただきたい。

常設通いの場スタートアップ事業補助金

令和3年度から始まったこの補助金は、住民からの相談を受け、専門職につなぐことのできる相談体制を有する通いの場に対し、立ち上げや運営にかかる費用の一部を補助するものです。「常設」「スタートアップの2年間限定」に絞って、市、社会福祉協議会と協働が可能な人材・団体の発掘・育成を目指すところに特色があります。令和5年度は「ふふ富士見」と「みんなの部屋」に交付しました。次年度以降も、誰もがふらっと入れる居場所の創出を目指し、住民・企業・団体と相互連携して参ります。

つながり創出による高齢者の健康増進プロジェクト ～CDC（調布・デジタル・長寿）運動～

●CDC運動

調布スマートシティ協議会のメンバーである国立大学法人電気通信大学、アフラック生命保険株式会社、調布市による「つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC（調布・デジタル・長寿）運動」は高齢者のデジタルデバйд（情報格差）の解消に取り組み、『健康寿命の延伸』と『主観的幸福度の向上』を目標としています。東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」を活用して実施している取組です。（令和3年度～令和5年度まで）

●百楽けんこう講座

貸出しするタブレット端末を使用して、自宅でプロのトレーナーによる軽い運動・栄養指導デジタル機器の使い方指導、参加者同士の交流を実施。対象は65歳以上、全7回、147名が参加。今後も継続して体操をしたい自宅で復習したい等の要望に応え、「運動」の動画を作成しました。

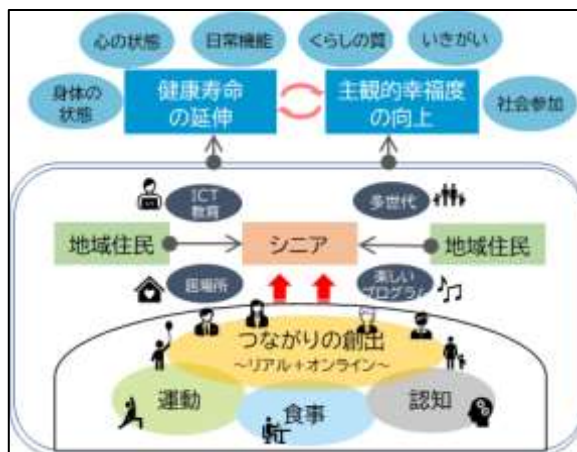
●デジタルリビングラボの運営

つながりを創出する地域の多世代交流の場、またデジタル機器への抵抗感をなくすため、楽しく健康状態を測定できる機器（体組成計、反応測定を行うスープリュームビジョン、ベジメータ、認知機能・ストレスチェック・転倒リスクの測定器等）を設置し、週3日運営。スマホミニ講座や個別相談、様々なイベントを通して、誰もが訪れやすく、人とのつながりが感じられる「通いの場」としての機能を担いました。

CDCの情報は調布スマートシティ協議会のホームページ内の特設ページでご確認いただけます。



<PCサイト>



調布市健康づくりプロジェクト STEP 1
～STEP6 まであります。



<Youtube 調布市動画ライブラリー ChofuCity>

	深大寺リビングラボ	染地リビングラボ
開設期間	令和4年7月13日 ～令和6年2月28日	令和4年10月25日 ～令和6年2月27日
場所	深大寺東町 6-27-28	染地 3-1-435 メディカルガーデン 203
開業時間	水・金・日(※)午前10時～午後4時 ※日曜は不定期	火・金・土 午前10時～午後4時
総営業日数	225 営業日	205 営業日
総来訪者数	2,105 名（1日平均 9.4 名）	1,272 名（1日平均 6.2 名）

CDC運動は終了しましたが、深大寺リビングラボ跡地で、特定非営利活動法人ソーシャルバージョン協奏バンク（国立大学法人電気通信大学認定ベンチャー）が、食べて測って集って地域の健康増進拠点「深”（JIN）」を令和6年4月19日開設。



令和 5 年 10 月から第 2 層の支え合い推進員が 8 名体制になりました。これで全ての福祉エリアに第 2 層の支え合い推進員が 1 名ずつ配置されたことになります。これまでは少ない人数で市内全域をカバーできるように協力してきましたが、令和 5 年 10 月からは各自の担当エリアが明確になり、そこに注力することが可能になりました。第 2 層の支え合い推進員 2 名体制でスタートした同事業ですが、これでようやく体制が本格的に整ったといえます。

支え合い推進員のようなコーディネーターの配置人数に関して「適正」というものはありません。全国を見渡すと、地方の人口密度が低い自治体では、担当するエリアが広いということもあり、人口約 1000 人や 5000 人に対して 1 人のコーディネーターが配置されているような自治体もあれば、自治体の方針や予算の都合によっては人口 5 万人や 10 万人に対して 1 人のコーディネーターを配置する自治体もあります。そもそも第 2 層の支え合い推進員は配置せず、第 1 層のみの配置という自治体もあります。調布市に目を移すと、第 2 層の支え合い推進員が 2 名配置の時代は、人口約 12 万人に 1 人の支え合い推進員の配置だったわけですが、現在は平均すると人口約 3 万人に 1 人の支え合い推進員が配置されていることになります。調布市の場合、地域福祉コーディネーターも各福祉エリアに 1 人配置されているため、平均すると 1 人のコーディネーターあたり約 1 万 5000 人の地域住民と向き合うことになります。繰り返しますが、コーディネーターの配置人数には「適正」な人口比があるわけではありません。ただし、地域共生社会という、地域住民同士の支え合いが求められる今日の社会福祉の状況に鑑みると、地域の中で住民とともに活動するコーディネーターが一層求められていることは疑いの余地がありません。

とはいっても、「成果」が見えなければ、この事業の意義を社会的に認めてもらうことは難しいでしょう。第 2 層の支え合い推進員を 8 名配置するからには、それなりの「成果」が求められることもまた事実です。しかし、本報告書の内容が示しているように、「成果」に関して心配することはないように思います。令和 4 年度の報告書にも書きましたが、生活支援体制整備事業を推進するためのノウハウがコーディネーターの中に蓄積されてきており、新たに第 2 層の支え合い推進員が配置された地域であっても、短期間のうちに「成果」を生み出していることが、本報告書で確認できます。むしろ、アドバイザーとしては「成果」至上主義になってしまっていないかということを危惧するほどです。第 2 層でいうと、サロンや食支援、体操、居場所など、住民が主体となって様々な活動が地域の中で生み出されていて、その様子は他地域のモデルとなるほどの様相です。第 1 層に関しても、民間企業を中心に、地域活動に対して資源を積極的に提供する事例が増えてきており、市内における好循環を生み出しています。それらの事例は、地域に潜在力が備わっていたということを証明しており、そうした潜在力を引き出す支え合い推進員のコーディネート力が成熟してきていることを示しています。

それほど順調に推進されている同事業だからこそ、期待を込めて、最後にあえて注文をつけたいと思います。調布市の人口規模や産業規模からいうと、この街の潜在力はまだまだこのようなものではありません。今の事業のカタチに捉われず、中長期的な計画を立てて、本事業の新たなステージを築いていってほしいと思います。

【用語集】

用語	説明
10の筋力トレーニング (10筋)  10筋(初級編・中級編・上級編) Youtub>調布市動画ライブラリーChofuCity	高齢者支援室が推奨している筋力トレーニングで「生活に必要な動作を10年後も変わらず出来ること」を目標にしている。 初級・中級・上級で構成されており、歩く、立つ、座る、またぐ、昇る、降りるといった日常の生活動作に応じた筋肉を10種類のトレーニングで鍛える。 高齢者支援室では関係機関と連携しながら、介護予防のため自主的に「10の筋力トレーニング」を行うグループ作りや継続支援にも力を入れている。
地域包括支援センター (包括)  調布市 HP	高齢者とそのご家族が地域で安心して暮らすための、福祉や介護等に関する総合相談窓口。調布市が社会福祉法人等に委託し、各福祉圏域に設置(サブセンター含め10カ所)している公的機関。 職員は保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャー等の専門職を配置し、介護予防、権利擁護、介護保険の代理申請、要支援の方のケアプラン作成、みまもつと等々を関係機関と連携しながら行い、高齢者の生活を支える役割を担っている。
地域福祉コーディネーター (CSW:コミュニティソーシャルワーカー)  調布市社会福祉協議会 HP	福祉のことなら何でも相談できる窓口として、調布市福祉総務課が社会福祉協議会に委託し、各福祉圏域に1名配置(計8名)している。 生活上の悩みや困りごとに対して、様々な関係機関と連携したり、必要な情報を案内することで課題解決を図る。また、住民主体の活動の推進や、地域の繋がりづくりを行っている。
ひだまりサロン  調布市社会福祉協議会 HP	交流の場づくりとして調布市社会福祉協議会が進めている事業で、様々な活動を行っている団体(サロン)がある。 住み慣れた地域で一人ひとりが孤立することなく、お互いに助け合い安心した生活を送ることを目的にしている。
フレイル	加齢に伴う心身の衰えの状態。 「健康な状態と要介護状態の中間」であり、健康な状態に回復可能であるため、適切な介入・支援が重要と考えられている。
フードパントリー	食品を無料で配布する活動。

【資料編】

●セカンドライフ応援キャンペーン 協賛企業・団体 一覧 (敬称略)

見守り：調布市自治会連合協議会，調布市商工会，日本郵便株式会社調布郵便局，(公社)調布市医師会，(一社)調布市歯科医師会，(一社)調布市薬剤師会，東京電力パワーグリッド株式会社調布事務所，東京ガスネットワーク株式会社 東京西支店，調布管工土木事業協同組合，ニコニコキッチン調布店，株式会社武蔵野フーズ，調布市民生児童委員協議会，調布市シニア連合会，(社福)調布市社会福祉協議会，(公財)調布ゆうあい福祉公社，みずほ銀行調布支店，みずほ銀行調布仙川支店，三井住友銀行国領支店，三井住友銀行調布駅前支店，三井住友銀行仙川支店，三菱UFJ銀行調布支店，三菱UFJ銀行仙川支店，きらぼし銀行調布支店，きらぼし銀行神代出張所，山梨中央銀行調布支店，横浜銀行調布支店，西武信用金庫柴崎駅前支店，東京三協信用金庫調布支店，芝信用金庫仙川支店，多摩信用金庫調布支店，多摩信用金庫調布北口支店，昭和信用金庫つつじが丘支店，昭和信用金庫多摩川支店，さわやか信用金庫調布支店，さわやか信用金庫多摩川支店，公益社団法人調布市シルバー人材センター，株式会社ゆうちょ銀行調布店，生活協同組合パルシステム東京，東京都水道局，東京ガスリックリビング株式会社 東京ガスライフバル調布狛江，ライフデリ調布店，布亀株式会社，ヤマト運輸株式会社調布支店，多摩南生活クラブ生活協同組合，アルフレッサ株式会社，イースタンモータース調布株式会社，東都生活協同組合，生活協同組合コープみらい，東京都住宅供給公社，株式会社スズケン，藍澤證券株式会社アイザワ証券調布支店，株式会社セブン-イレブン・ジャパン，株式会社イトーヨーカ堂，株式会社調布清掃，株式会社吉野清掃，(一財)調布市市民サービス公社，京王不動産株式会社調布営業所，京王メモリアル調布，株式会社ファティック出張美容リンデン武蔵野三鷹，明治安田生命保険相互会社新宿支店，調布市新聞販売同業組合，株式会社マツダ（ASA仙川，ASA柴崎），株式会社田仲新聞舗（YC調布），毎日新聞調布販売所（毎日調布），株式会社石川新聞店（ASA調布，ASA調布北部，ASA国領），産経新聞調布東部販売所（産経調布東部，産経調布西部），ASA調布西部，ASA西調布，YC つつじヶ丘仙川，読売センター南調布，株式会社くらしの友，東京ヤクルト販売株式会社，佐川急便株式会社，株式会社メモリード，介護支援専門員 調布連合協議会，特定非営利活動法人 調布市地域情報化コンソーシアム **活動場所の提供：**(社福)寿真会特別養護老人ホームらくえん深大寺，(社福)東京かたばみ会，特別養護老人ホーム神代の杜，クオール薬局調布店，すまいるウォーク，株式会社くらしの友(国領総合斎場，調布総合斎場)，株式会社メモリード(調布メモリードホール，飛田給メモリードホール) **生活支援サービスの実施：**非特定営利法人 たすけあいワーカーズ調布はこべ，**食の支援：**イトーヨーカ堂国領店，ライフクロスガーデン調布店，クイーンズ伊勢丹仙川店，マルエツ国領店，マルエツ調布店，東急ストア調布店，株式会社いなげや調布仙川店，株式会社いなげや in21 調布染地店，キッチンコート西調布店，生活クラブ生活協同組合・東京デポー国領駅前店，トップフレッシュマーケット深大寺店，調布＆木島平食の駅新鮮屋 **活躍の場の提供：**NPO 法人ちょこネット，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル **介護予防活動支援の実施：**UMM&C 宇野医療経営コンサルタント事務所，クオール薬局調布店，電気通信大学大学院大河原研究室，日本調剤調布薬局，しばさき彩ステーション，特定医療法人社団研精会東京さつきホスピタル，明治安田生命保険相互会社 新宿支店 東京ヤクルト販売株式会社 **その他：**(子育て支援，世代交流支援)ぷくぷく・ポレポレの家，府中公共職業安定所，府中公共職業安定所調布国領しごと情報広場，(看取り，葬送相談等)SOGI サポートセンター，(スマホセミナー)ソフトバンク株式会社 (イベント(季節))しばさき彩ステーション

●第Ⅰ層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
市全域	47	33	50	26	23	179

・相手方区分

	当事者	地域住民	ボランティア NPO	行政 (福祉)	行政 (福祉以外)	地域包括支 援センター
市全域	1	9	1	3	2	24
	民生児童 委員	その他 専門機関	調布社協	調布社協	合計	
市全域	0	6	11	122	179	

・活動内容

	サービスの 創出	担い手の 養成	担い手の 活動する 場の把握	関係者間の 情報共有	連携の体制 づくり	ニーズと 取組の マッチング	PR	その他	合計
市全域	125	14	27	72	160	97	7	1	503

●第Ⅰ層協議体 開催回数

	開催回数	参加延人数	活動内容
市全域	1	14	セカンドライフ応援キャンペーン運営検討会

●第2層地域支え合い推進員 活動件数

・活動区分

福祉圏域 (小学校区)	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	72	112	35	312	157	688
若葉・調和	63	140	80	318	226	827
上ノ原・柏野	51	6	34	132	98	321
北ノ台・深大寺	97	164	50	349	200	860
第二・八雲台・国領	84	383	63	253	211	994
染地・杉森・布田	51	87	58	333	146	675
第一・富士見台・多摩川	62	35	36	202	71	406
第三・石原・飛田給	31	61	52	332	93	569
合 計	511	988	408	2,231	1,202	5,340

・相手方区分

福祉圏域 (小学校区)	当事者	地域住民	ボランティア NPO	行政 (福祉)	行政 (福祉以外)	地域包括支 援センター
緑ヶ丘・滝坂	11	555	31	36	20	64
若葉・調和	132	392	94	54	41	87
上ノ原・柏野	111	370	85	52	39	82
北ノ台・深大寺	64	383	267	53	12	98
第二・八雲台・国領	14	745	582	20	7	41
染地・杉森・布田	75	429	370	102	75	113
第一・富士見台・多摩川	13	318	25	55	24	79
第三・石原・飛田給	25	395	141	32	46	61
合 計	445	3,587	1,595	404	264	625

福祉圏域 (小学校区)	民生児童 委員	その他 専門機関	企業 商店	調布社協	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	39	109	38	278	15	1,196
若葉・調和	92	105	34	167	13	1,211
上ノ原・柏野	90	101	31	160	12	1,133
北ノ台・深大寺	20	88	21	190	11	1,207
第二・八雲台・国領	161	60	105	250	264	2,249
染地・杉森・布田	186	218	122	212	11	1,913
第一・富士見台・多摩川	67	57	62	206	18	924
第三・石原・飛田給	105	99	70	249	51	1,274
合 計	760	837	483	1,712	395	11,107

・活動内容

福祉圏域 (小学校区)	サービスの 創出	担い手 の 養成	担い手の 活動する 場の把握	関係者間 の 情報共有	連携の体 制 づくり	ニーズと 取組の マッチン グ	PR	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	29	467	172	324	617	142	94	64	1,909
若葉・調和	158	126	270	377	457	259	113	155	1,915
上ノ原・柏野	18	12	108	130	113	43	37	62	523
北ノ台・深大寺	70	65	262	723	666	292	303	79	2,460
第二・八雲台・国領	209	21	289	672	582	404	25	69	2,271
染地・杉森・布田	156	99	200	449	248	274	81	26	1,533
第一・富士見台・多摩川	96	14	274	323	252	213	57	72	1,301
石原・第三・飛田給	65	64	278	547	482	340	98	17	1,891
合 計	801	868	1,853	3,545	3,417	1,967	808	544	13,803

●第2層協議体 開催回数

	開催回数	参加延人数	活動内容
緑ヶ丘・滝坂	57	803	スマホを楽しむ会、みんな食堂仙川スープなど
若葉・調和	54	734	ヤングケアラーについて考える会、坂の上のばあちゃん家ミーティングなど
上ノ原・柏野	23	307	上ノ原まちづくりの会、各小地域実行委員会など
北ノ台・深大寺	62	789	絵堂なかよし子ども食堂、てのひらドロップスなど
第二・八雲台・国領	59	584	二小地区もりあげ隊、まごじばなど
染地・杉森・布田	58	777	にぎわいのある街をつくる会、みんなの部屋運営委員会など
第一・富士見台・多摩川	58	665	みんな DE ネットスタッフ打ち合わせ、はつらつ筋陽会など
石原・第三・飛田給	67	931	各地区協議会、各ふれあいのつどい実行委員会など
合 計	438	5,590	

普及啓発 開催回数

会福祉協議会の会報「ふくしの窓」1月20号では支え合い推進員の特集記事を掲載



	開催回数	参加延人数	活動内容
緑ヶ丘・滝坂	2	14	成年後見制度講座
若葉・調和	3	27	スマホボランティア養成講座
上ノ原・柏野	2	18	ラジオ体操講習会
北ノ台・深大寺	2	23	特殊詐欺と身近な防犯対策講座
第二・八雲台・国領	2	25	男性介護者の会の立上げに向けた講習会
染地・杉森・布田	6	217	にぎわい学習会、CDCリビングラボ説明会、防災講習会など
第一・富士見台・多摩川	1	50	ちょうふ地域見守り声掛け訓練
石原・第三・飛田給	5	413	サレジオバザー、富士見町茶話会、バリアフリー映画体験会、5中ボランティアダンス部地域交流祭
合 計	23	787	

【困ったときは】



●地域包括支援センター連絡先

名称	電話番号	所在地
① つつじヶ丘	☎ 03 (5315) 5400	東つつじヶ丘1-5-2
② 仙川	☎ 03 (5314) 0030	若葉町2-22-2 1階
③ 至誠しばさき	☎ 042 (488) 1300	柴崎1-6-8 鴨志田荘2-1F
④ はなみずき	☎ 042 (441) 5763	深大寺北町4-17-7
⑤ ゆうあい	☎ 042 (481) 4973	国領町3-8-15-5-109
サブセンター	☎ 042 (484) 8011	八雲台1-22-1 1階
⑥ ときわぎ国領	☎ 050 (5540) 0860	国領町7-32-2-101
⑦ ちょうふ花園	☎ 042 (484) 2285	小島町2-45-22 1階
⑧ ちょうふの里	☎ 042 (441) 6655	西町290-5
サブセンター	☎ 042 (444) 5151	上石原2-11-3 THE PALMS西調布1階

●地域包括支援センターとは

高齢者をご家族のための総合相談窓口です。介護予防をはじめ様々なサービスの利用や、虐待の早期発見・防止など、高齢者に関する総合的な相談をお受けします。相談・支援には、社会福祉士、保健師及び主任ケアマネジャーなどが担当します。また、最近ご近所の方の様子が変だなといった時にも、地域包括支援センターにご連絡ください。

●第2層：地域支え合い推進員（令和6年度）

福祉圏域	担当者	担当地域一覧
① 緑ヶ丘・滝坂 小学校地域	 高杉	仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1丁目・2丁目、 菊野台1丁目の一部、 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、 西つつじヶ丘1～4丁目の一部、 若葉町1丁目の一部
② 若葉・調和 小学校地域	 吉田	東つつじヶ丘3丁目の一部、 西つつじヶ丘3・4丁目の一部、 入間町1～3丁目、 若葉町1丁目の一部・2丁目・3丁目、 国領町8丁目の一部、 菊野台1丁目の一部・2丁目・3丁目
③ 上ノ原・柏野 小学校地域	 伊藤	佐須町1丁目の一部・2丁目・3丁目の一部・4丁目・ 5丁目、柴崎1丁目・2丁目、菊野台1丁目の一部、 西つつじヶ丘1丁目の一部・2丁目の一部、 調布ヶ丘3丁目の一部、深大寺元町2丁目の一部、 深大寺東町2丁目の一部・3丁目・4丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・5丁目の一部
④ 北ノ台・深大寺 小学校地域	 志村	深大寺北町1～7丁目、佐須町1丁目の一部、 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目、 深大寺東町1丁目・2丁目の一部・5～8丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・4丁目・5丁目の一部
⑤ 第二・八雲台・ 国領 小学校地域	 前田	佐須町3丁目の一部、 調布ヶ丘2丁目・3丁目の一部、 八雲台1丁目・2丁目、 国領町1～5丁目、8丁目の一部、 布田2丁目・3丁目
⑥ 染地・杉森・ 布田 小学校地域	 高畠	国領町6～7丁目、染地1～3丁目、 布田5～6丁目、多摩川6～7丁目
⑦ 第一・富士見台・ 多摩川 小学校地域	 金子	富士見町2丁目の一部、 下石原1～3丁目の一部、小島町1～3丁目、 多摩川1～5丁目、布田1丁目・4丁目、 調布ヶ丘1丁目・3丁目の一部・4丁目、 深大寺元町1丁目
⑧ 第三・石原・ 飛田給 小学校地域	 根木	飛田給1～3丁目、上石原1～3丁目、 富士見町1丁目・2丁目の一部・3～4丁目、 下石原1～3丁目の一部、 野水1丁目・2丁目、西町

お問い合わせ先は次頁をご覧ください。

問い合わせ先：調布市 社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域支援係
調布市小島町２－４７－１ 総合福祉センター内
電 話：０４２－４８１－７６９３
ＦＡＸ：０４２－４８１－５１１５
メール：chofu-co@ccsw.or.jp

セカンドライフ応援キャンペーンに関するお問い合わせ

問い合わせ先：調布市 福祉健康部 高齢者支援室 地域包括ケア推進係
調布市小島町２－３５－１
電 話：０４２－４８１－７１５０
ＦＡＸ：０４２－４８１－４２８８
メール：kourei@city.chofu.lg.jp

令和 5 年度

調布市生活支援体制整備事業報告書

(地域支え合い推進員活動報告書)

発行日 令和 6 年 8 月

発 行 調布市福祉健康部 高齢者支援室

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

編 集 調布市福祉健康部 高齢者支援室

刊行物番号
2024-78

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

(電 話) 042-481-7150 (直通)

(ファクス) 042-481-4288

(U R L) <https://www.city.chofu.lg.jp/>
